

# 平成28年度校内研究計画

山梨市立山梨北中学校

## 1. 学校課題

### (1) 教科における課題

平成27年度全国学力状況調査による本校の結果では、国語では、「書くこと」の領域がA問題B問題ともに山梨県、全国と比較してもやや低い正答率である。(A問題：70.5%，B問題：32.5%) 無解答率については、A問題もB問題もともに低くなっている。数学では、平成26年度では課題があった「資料の活用」について、やや改善が見られた。(A問題：54.8%→60.0%) しかし、B問題になると、解答率も低くなり(29.6%)、無解答率も高くなる。(26.3%)。問題形式では、記述式になると正答率が低くなり(30.1%)、無解答率も、高くなっている。

また平成27年度山梨県学力把握調査において、国語、英語では「書くこと」の領域がどちらも県の正答率より低い。(国語：46.5%，英語：44.8%) 数学では「図形」で正答率が60.5%と県の正答率より低くなっている。無解答率は、領域では「書くこと」、問題形式では記述式で高くなっている。

どちらの調査からも、本校の生徒は「考えて書くこと」に課題がある。そのため、学習活動においては思考させる場面を多く取り入れ、さらにそれを表現していく活動を取り入れる必要があると考える。

### (2) 生活習慣・学習習慣における課題

学習の基盤となる「生活習慣」「学習習慣」においては、規範意識や自尊感情などが全国・県の基準より高かった。また、本校が取組を続けている「言語活動・読解力」の値も全国平均を上回った。取組の成果が表れていることがわかる。テレビの視聴やスマホ等の使用時間も平成26年度に比べ、改善がみられる。(テレビ：70.5%→56.5%，スマホ等：53.0%→44.0%) 家庭における学習時間も1時間以上学習している生徒は7割を超え(75.6%)、一定の時間の確保はできた。今後さらに学習が定着するために、家庭での生活の見直し等自己を管理する力も育んでいきたい。

## 2. 研究主題

「確かな学力の向上をめざす学習指導に関する研究」

～思考・表現活動の充実による授業改善～

## 3. 主題設定の理由

学習活動において、「確かな学力」を育成するために、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育むことの双方が求められている。日々の学習活動を通じて、これらを確実に習得させバランスよく育むために、基盤となるのは「言語に関する能力」としている。このことは、国語科のみならず、各教科に通じる重要な視点である。

本校は、平成28年度までの3年間、山梨県教育委員会「授業改善プラン実践事業推進校」の指定を受け、確かな学力の向上と定着に向けての研究の機会をいただいた。26年度は初年度として、「確かな学力の向上をめざす学習指導に関する研究」を研究主題とし、これまでの研究を生かしながら、言語活動に視点を当て、サブテーマを「～言語活動の充実による授業改善～」として、各教科において取り組んできた。

NRT調査・山梨県学力把握調査・全国学力学習状況調査の結果をもとに本校生徒の課題を見つけ、課題を克服するための計画を示した「授業改善プラン」の取組を実践した。また、学習過程についても、全教科共通の過程を目指した『山北スタイル』等を通して主題に迫るべく研究を進めてきた。

2年目の昨年度は、前年度の研究主題「～言語活動の充実による授業改善～」から「～思考活動の充実による授業改善～」とし、確かな学力の向上を目指し、言語活動を通しての「思考力」を高める研究を深めるべく取り組んできた。

3年目の今年度は「授業改善プラン実践事業推進校」の指定、最終年度としてこれまでの研究を生かし、さらに学力向上に向けて研究を進めていきたいと考える。そこで、サブテーマを「～思考・表現活動の充実～」とする。これまでの研究において、授業の中に生徒が思考する場面を設定し、グループ活動を通して考えを深めていく活動を行ってきた。今年度は思考した考えを、より相手に伝わる方法で発

信（表現）していく活動も取り入れた研究を進めていきたいと考える。研究3年目の集大成として、生徒の学力向上につながる研究に取り組んでいきたい。

#### 4. 研究の具体的取組内容と方法

##### (1) 授業形態の統一「山北スタイル」(思考力を高める授業形態)

<p><b>【教師】</b> ①課題提示の工夫 ↓ ②自力解決支援 ↓ ③相互解決・展開 ↓ ④評価・まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活等と結びつく課題</li> <li>・意欲につながる課題</li> <li>・生徒自ら思考・判断・表現するための支援</li> <li>・ペア，グループ解決，全体解決</li> <li>・評価(生徒・教師)</li> <li>・まとめ(定着と繋がり)</li> </ul>	<p><b>【生徒】</b> ①課題の把握 (的確な) ↓ ※見通し ②自力解決(記述ノート等) ↓ ※活用力 ③相互解決(学び合い) ↓ ※協働的学習 ④まとめ(学習整理) ※振り返り</p>
--	--	---

##### (2) 基礎学力定着の取組

- ①自主学習ノートの作成
- ②スコラ手帳の活用 (書く習慣・時間を意識する習慣・考える習慣)
- ③朝学習 → 読書活動の定着, 「書くこと」の定着「作文」の実施
- ④山北サポートタイム → 基礎基本の定着, 年間10回実施

またこのほかに、定期テスト前には放課後「自学の時間」として質問を受けての指導や、自主学習をする時間を確保している。夏休みには、「夏季学習会」として、基礎学習や個別の課題を指導する時間を各学年・各教科で設けている。

##### (3) 教材教具の開発・工夫

##### (4) 教科に関わる掲示物の工夫

##### (5) 授業改善プランを生かした研究実践

### 年間校内研修計画

研究主任 丹澤 基子

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	T・C要請
思考・表現活動の充実による授業改善「授業改善プランに基づいた教科授業」【国語】	国語	糠信 恵理香	2年	11/2 (火)	○
思考・表現活動の充実による授業改善「授業改善プランに基づいた教科授業」【社会】	社会	未定	年	11/2 (火)	○
思考・表現活動の充実による授業改善「授業改善プランに基づいた教科授業」【数学】	数学	猪股 研	2年	11/2 (火)	○
思考・表現活動の充実による授業改善「授業改善プランに基づいた教科授業」【英語】	英語	未定	年	11/2 (火)	○
思考・表現活動の充実による授業改善「授業改善プランに基づいた教科授業」【理科】	理科	佐藤 政幸	1年	11/2 (火)	○
道徳・学活研究授業	道徳	佐藤 政幸	1年	10月	○
道徳・学活研究授業	道徳	糠信 恵理香	2年	1月	○

